

# MUSEUM TRAIL

## ミュージアム・トレイル

自然に囲まれた多摩キャンパスは、  
良い散歩コースでもあります。

ミュージアム・トレイルは、  
キャンパス各所に点在する  
史跡・モニュメント・貴重コレクションを  
共通サインで繋いだ、  
キャンパスの見どころをたどる道です。

## オンライン・プラットフォーム 「多摩キャンパスの記憶とストーリー」

ミュージアム・サテライト多摩では、リアルなミュージアム・トレイルと  
連動して、オンライン上のプラットフォーム（Historypin）にも  
「多摩キャンパスの記憶とストーリー」というページを設けています。  
開設時から現在までのさらに多くの多摩キャンパスと近隣地域の  
“記憶とストーリー”を、以下のQRコードからぜひご覧ください。



## 多摩キャンパスの成り立ち

1960年代以降、大学進学率が上昇して学生数が急増し、法政大学でも  
市ヶ谷キャンパスには「籍があっても席がない」と言われる過密状況が  
生じていました。大学では長期にわたる議論の結果、充実した教育・  
研究活動を全学で実現していくために多摩キャンパスの開設を決め、  
1984年、経済学部と社会学部がこの地で教育・研究活動を始めました。

- 1880年（明治13）◆ 東京法学社 設立。
- 1920年（大正 9）◆ 財団法人法政大学となり、法学部、経済学部を設置。
- 1951年（昭和26）◆ 学校法人法政大学となる。
- 1952年（昭和27）◆ 社会学部を設置。
- 1964年（昭和39）◆ 町田校地（現在の多摩キャンパス）の購入が始まる。
- 1984年（昭和59）◆ 多摩キャンパスを開設。  
経済学部第一部と社会学部第一部、多摩キャンパスへ移転。  
比較経済研究所を創設。
- 1985年（昭和60）◆ 日本統計研究所（1941年創設）、多摩キャンパスへ移転。
- 1986年（昭和61）◆ 大原社会問題研究所（1919年創設）、多摩キャンパスへ移転。
- 1988年（昭和63）◆ 工学部棟の竣工。
- 1996年（平成 8）◆ 多摩地域社会研究センターを開設。
- 1999年（平成11）◆ 文化厚生施設「EGG DOME（エッグドーム）」竣工。
- 2000年（平成12）◆ 現代福祉学部を設置。  
体育研究センター（1976年創設 現在のスポーツ研究センター）、  
多摩キャンパスへ移転。
- 2009年（平成21）◆ スポーツ健康学部を設置。
- 2013年（平成25）◆ 多摩地域交流センターを開設。
- 2023年（令和 5）◆ ソーシャル・イノベーションセンターを開設。

# MUSEUM TRAIL

## TAMA SATELLITE

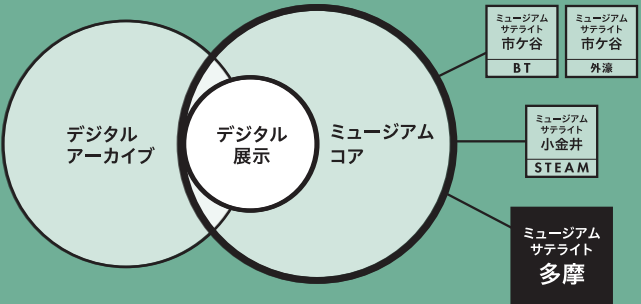
## 多摩キャンパスの記憶とストーリー



# HOSEI UNIVERSITY MUSEUM TAMA SATELLITE

## HOSEIミュージアム 法政大学の歴史・個性・文化を伝える ネットワーク型ミュージアム

HOSEIミュージアムは、1880年の法政大学創立以来の歴史、個性、  
文化を結びつけ、新たなコラボレーションと創造を促し、未来を展望  
するための場として、校内3キャンパスとデジタル空間をネットワーク化  
しています。



貴重な学内資源をデジタルコレク  
ションとして保存し、資料情報を  
アーカイブ化するとともに、WEB上  
で研究者や学生、一般利用者に  
公開する

本ミュージアムの  
中核的機能を担う

本学の3キャンパス各々の  
個性を伝え、ミュージアム・  
コアとネットワーク化する

## HOSEIミュージアム・サテライト 多摩

HOSEIミュージアムでは、ミュージアム・コア（市ヶ谷キャンパス）  
とネットワーク化したミュージアム・サテライトを本学3キャンパスに  
それぞれ設置し、各キャンパスの個性を伝えています。ミュージアム・  
サテライト多摩では、デジタル空間とリアルなキャンパスを繋ぎながら、  
開設以来の多摩キャンパスと近隣地域の“記憶とストーリー”を収集し、  
束ね、未来へと伝えていきます。



法政スポーツのストーリー



1920年に大学令のもとで総合大学として歩み始めた法政大学では、学生たちが文化・スポーツなどの課外活動を活発に展開し始めました。その後、体育会活動で日本有数の実績を誇る今日まで、本学には数々の「法政スポーツのストーリー」が生み出されています。多摩キャンパスでは、陸上競技部、ラグビー部、サッカー部、水泳部、テニス部などの多数の体育会部やサークルが活動しています。



町田市と八王子市の市境



本学多摩キャンパスは、3つの自治体にまたがって立地しています。大半は東京都町田市相原町の一部ですが、キャンパス南部の城山地区は神奈川県相模原市緑区の一部です。また、東京都八王子市寺田町の一部も含まれます。このサインが立つ場所には、法政大橋に並行して町田市と八王子市の市境が走っており、実際に、この付近には両市名を刻んだ古い境界標も残っています。



「平和祈念碑」 (1995年、経済学部同窓会建立)



戦後50年の1995年、本学経済学部同窓会は「平和祈念碑建立運動」に取り組みました。その起点には、学徒兵として特攻隊で生き残った経済学部卒業生、俳優・故根上淳さんの呼び掛けがありました。若者の青春が戦争によって奪われることが二度とあってはならないとの痛切な願いは、多くの賛同を呼び、市民含めて893人の個人・団体から寄付が集まり、この碑が建てられました。



「宇宙の風」 (1995年、飯田善國 作)



ステンレス製で「宇宙の風」と名付けられたこのオブジェは、多摩キャンパス開設10周年を記念し、本学工学部建築学科教授(1983年～1989年)もつとめた彫刻家、飯田善國(1923年～2006年)によって制作されました。鏡面ステンレスとベアリングを用い、周囲の風景を映し出した鏡面が、風を受けてゆっくり回る彫刻は、常に新しい表現を求め続けた飯田作品の個性を表しています。



「泉一不戦の誓い」と「夢」 (1986年、北一明作)



本学社会学部卒業生であり、反核、平和を訴え続けた芸術家、北一明(1934年～2012年)による陶壁モニュメント。学部棟2階壁面にある「夢」と一対で制作されました。渦の中に数々のデスマスクが浮かぶ作品には、ヒロシマ、ナガサキ、アウシュビッツ、南京、沖縄等の土が練り込まれ、「反戦 反核平和のおもい」が『泉』の如くあふれ出、起点となることを願ったとされています。



多摩図書館所蔵貴重コレクション



1880年創立以来の歴史を反映し、法政大学の図書館は、多くの貴重コレクション、貴重書を所蔵しています。ここでは多摩図書館所蔵の貴重コレクションを一部ご紹介いたします。他にも以下などが所蔵されています。多摩地域資料 / スイス・ロマン文学コレクション / 宇野弘蔵文庫 / 戸坂潤文庫 / 谷川徹三文庫 / 服部之總文庫 / グラス文庫 / 栗原百寿文庫 / ミシェル・ルヴオン文庫 / クレーギー文庫



研究所と貴重コレクション



多摩キャンパスでは、1919年創設の大原社会問題研究所、1941年創設の日本統計研究所、1976年創設のスポーツ研究センター(創設時：体育研究センター)、1984年創設の比較経済研究所と、多数の研究所が設置され、ユニークな研究活動を展開しています。特に長い歴史をもつ研究所では、国内外から注目される貴重なコレクションを多数所蔵しています。



「多摩送信所」跡



第二次世界大戦末期、軍部は本土空襲に備えて対外送信環境の確保を必要とし、国際電気通信株式会社(現KDDI)に敷設を要請しました。三方を尾根に囲まれたこの地もその1つに選定され、1945年4月、隠蔽通信所として「多摩送信所」が開設しました。敷地には高さ60メートルの木支柱を立て、空中線6基を樹林にめぐるし、技術者、職員約50人が勤務する局舎が点在していたといいます。

